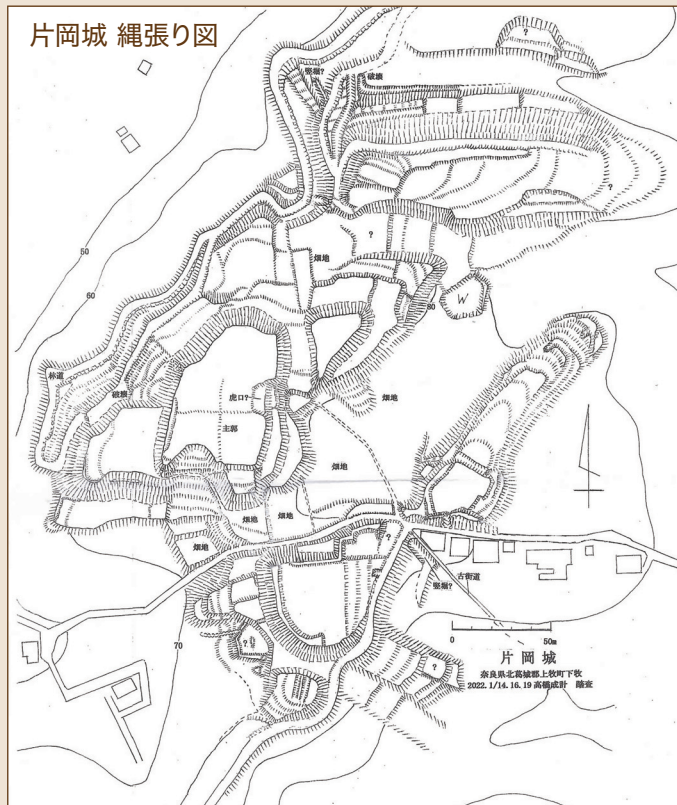




作図：高橋成計氏

片岡城のここが凄い

■松永久秀が改修した当時の縄張り(城の構造)が良好に残っている。片岡氏の居城であった片岡城を松永久秀が改修し、現在見られる何段かの地形や、南方に配置された土塁を有する郭などが非常によく残っている。

■織田軍の有名武将が片岡城攻めに参加していた。織田信長を裏切った松永久秀を攻めるべく、久秀のいる信貴山城攻めの前に、片岡城を先に攻略しておかないと織田軍にとってはやっかいな存在となる。織田軍の中でも有力武将である明智光秀や細川藤孝父子、筒井順慶などの名だたる武将と激しい戦いを繰り広げた城であった。

■天正5(1577)年に織田軍が片岡城攻めを行った際の様子が記された文献によれば、片岡城には「天守」と呼ばれる建物が存在していたことが伝わっている。これは信長が安土城に天守を築くよりも早いということになる。また、城内では瓦片も見つかっており、当時は瓦葺きの建造物があったことが分かっている。

動作環境

- ・iOS11以上 Safari
- ・Android8以上 GoogleChrome
- ・現地で利用いただく際の通信費用は利用者の方にご負担いただきます。
- ・インターネットに接続できる状態でご利用ください。

問合せ先

上牧町役場企画財政課
奈良県北葛城郡上牧町大字上牧3350 TEL. 0745-76-2502

片岡城の歴史

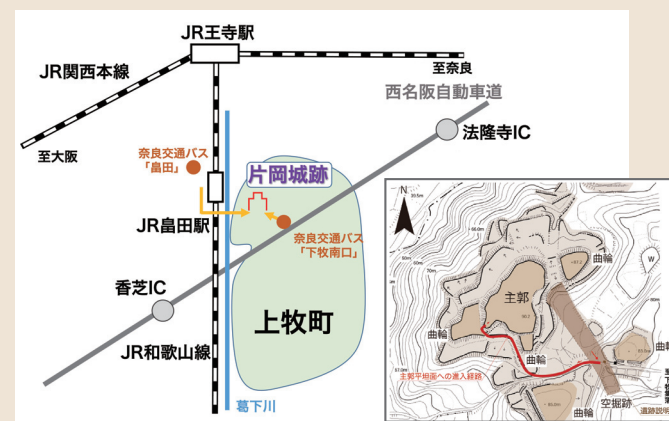
片岡城は、比高48メートルの小高い丘陵上に築かれた山城で、眼下に葛下川が流れ、南北に街道を押さえる位置にありました。古くは片岡国春によって築城され、永禄12(1569)年に、松永久秀と戦い落城。その後松永方の城として改修・整備されましたが、天正5(1577)年に織田軍の攻撃を受け、その後廃城となりました。

現在は耕作地として城内の多くが改変を受けてしまっているものの、中心部に残る大きな曲輪と周辺を取り囲むようにして帯曲輪状の地形が良好に残っており、空堀や土塁などの山城遺構も見られます。

片岡城の瓦が発見

片岡城跡に桜を植える際に地下を調べたところ、瓦が見つかりました。片岡城で瓦が発見されたのは初めてのことです。この瓦は屋根の端に見えるように取り付けの軒平瓦で、表には唐草の文様があります。また、縁が高く上がっていることが、城や寺院にのみ使用される瓦であることを示しています。このことから片岡城には天守があったことや瓦葺きの建物であったことが考えられます。

瓦は、上牧町文化センター内で展示しています。



片岡城跡へのご来城の際には、上記マップを参考に赤い線のルートで入城ください。

片岡城跡へのアクセス

- ・JR和歌山線「畠田」駅から東へ徒歩約10分
- ・奈良交通バス停「畠田」下車、東へ徒歩約15分
- ・奈良交通バス停「下牧南」下車、西へ徒歩約10分
- ・現地に駐車場はありません。
- ・城跡への道は大変道幅が狭く、車で行くことができません。

提供元：上牧町

よみがえ 今、蘇る。 戦国時代の片岡城

かつて戦国時代に、上牧町内には松永久秀が改修した片岡城が築かれていました。天正5(1577)年、織田信長を裏切った久秀を討ち取ろうと明智光秀ら織田家の有力武将が城に攻めかかり、片岡城は落城。現在の城跡からは当時の様子をうかがい知ることは困難です。



再現CG監修：滋賀県立大学名誉教授中井均氏

「再現スポット」でスマホをかざすとかつての姿をCGで再現！

☑️簡単操作

- 手順①：城跡でQRコードにスマホをかざす
- 手順②：現地の看板にスマホをかざす



地蔵横の看板

片岡城の図を中心にしてスマホをかざしてください
現地へ行ってかざしてください



主郭内の看板

☑️再現スポットは2カ所

地蔵横の看板／主郭内の看板

☑️事前準備は不要

- ・アプリの事前ダウンロードは必要ありません
- ・スマホのブラウザだけでお楽しみいただけます
- ※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です

CGで
タイムスリップ



上牧町遺跡散策地図

上牧町は、奈良盆地の中西部・葛城北部にあり、馬見丘陵のなだらかな丘の上に広がる町となっています。西側には葛下川、中央の谷あいには滝川が北向きに流れており、町の北西、東、南西に山や丘の自然を残して丘の上と川沿いにはたくさんの住宅地が造られています。町の広さでは、面積が6.14平方メートルと県内で4番目に小さな町ですが、今ではここに2万人余りの人々が暮らしています。



1 2 動物の化石

馬見丘陵は、奈良県内で唯一大型象など旧象の化石が見つかることで知られています。



米山台1丁目化石出土地
アケボノゾウの臼歯の化石(250万年前～70万年前)が発見されました。



桜ヶ丘2丁目化石出土地
シカマシフゾウのツノの化石(140万年～130万年前)が発見されました。

3 上牧銅鐸

北葛城地域で唯一の出土となる銅鐸で、弥生時代中期～後期頃(約2000年前)に作られたものと考えられています。現在は、静岡市立登呂博物館に展示されています。また、上牧銅鐸と同じ鑄型で作られた兄弟銅鐸が島根県の加茂岩倉遺跡から出土しており、広域な流通と交易の範囲を示しています。



4 大谷瓦散布地

五軒屋集落西側の山裾には広い範囲にわたり飛鳥時代の瓦や須恵器・土師器などの土器片が散布するため、瓦窯跡の存在が考えられています。これまでに、明日香村川原寺と同じ軒平瓦が見つっています。



5 史跡上牧久渡古墳群 上牧町ではじめての国指定史跡



上牧久渡3号墳の青銅鏡・鉄製武器・土器

中国製の銅鏡が見つかった上牧久渡3号墳は、古墳群の丘陵最北端に築かれた一辺約15mの方形の墳丘墓です。埋葬施設からは画文帯環状乳神獣鏡と共に鏃、槍など鉄製武器類や土器が副葬品として納められていました。これらの出土遺物から古墳出現期(弥生後期末～古墳前期)の築造とわかりました。

上牧久渡2号墳の横穴式石室

上牧久渡2号墳は、丘陵の南斜面に築かれた径16mの飛鳥時代(7世紀中頃)の円墳です。石室石材には、王寺町明神山産の輝石安山岩を使用し、床面には凝灰岩片を敷き詰めた、他に例の見ない構造をもつ古墳です。副葬された刀片や琥珀の玉のほか、寺院で使われる平瓦が見つかりました。

6 下牧瓦窯跡

1960年に町内で初めての発掘調査が行われ、奈良時代頃の登り窯が1基確認されました。調査を行った網干善教氏は、奈良時代の書物に記された「瓦山一処」や「瓦窯三口」との関連から注目すべき瓦窯と報告しています。2002年には、平城京・長屋王邸の瓦と同じ文様の軒丸瓦が見つかり、ここで焼かれた瓦が運ばれていたことがわかりました。



7 松里園古墳群

松里園古墳群は、古墳後期(6世紀前半から中頃)に築かれたと考えられており、これまでに4基の古墳が知られていますが、凝灰岩製の組合せ式家形石棺をもつ古墳がおもに築造されたようです。横穴式石室は見つかっておらず、石棺を直接埋める埋葬方法(石棺直葬)と考えられています。



史跡上牧久渡古墳群の上牧久渡3号墳から見つかった青銅鏡・鉄製武器・土器



葛城北部の古墳時代のはじまりを知るうえで大切なものとなることから、これらは「奈良県指定文化財」となっています。